

平成30年（2018年）の摩周の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2018年の発表履歴

2018年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
------------	-------------------

○2018年の活動概況

・火口や噴気の状況（図1～2）

5月28日から6月1日にかけて現地調査を実施しました。カムイヌプリ（摩周岳）の北側火口壁では、噴気や地熱域¹⁾は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）

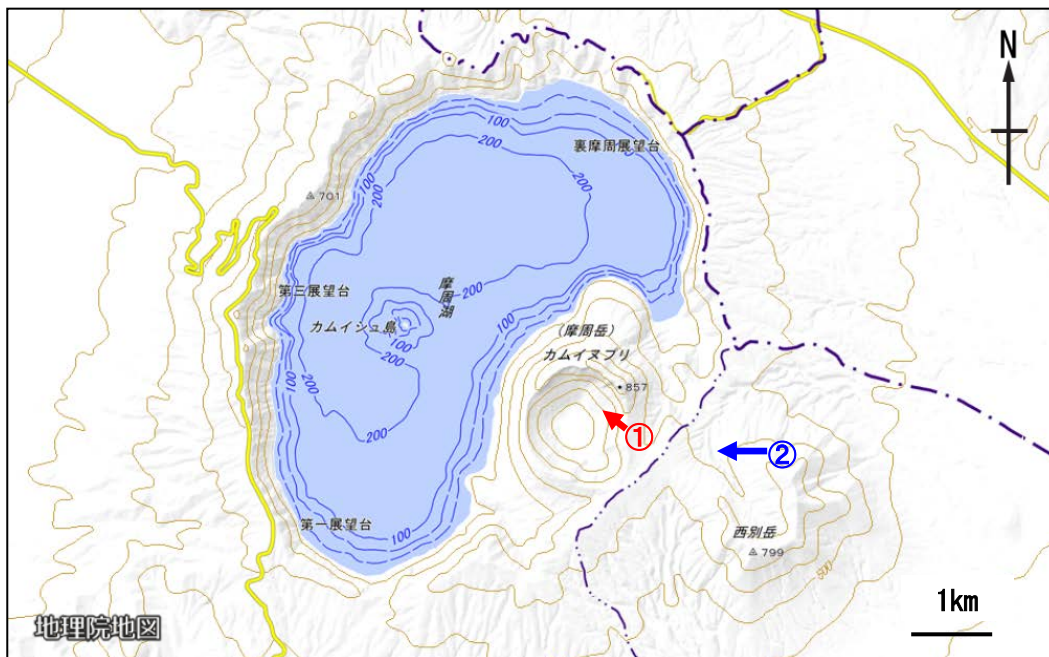


図 1 摩周 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）
赤矢印は地上からの撮影、青矢印は上空からの撮影を示します。

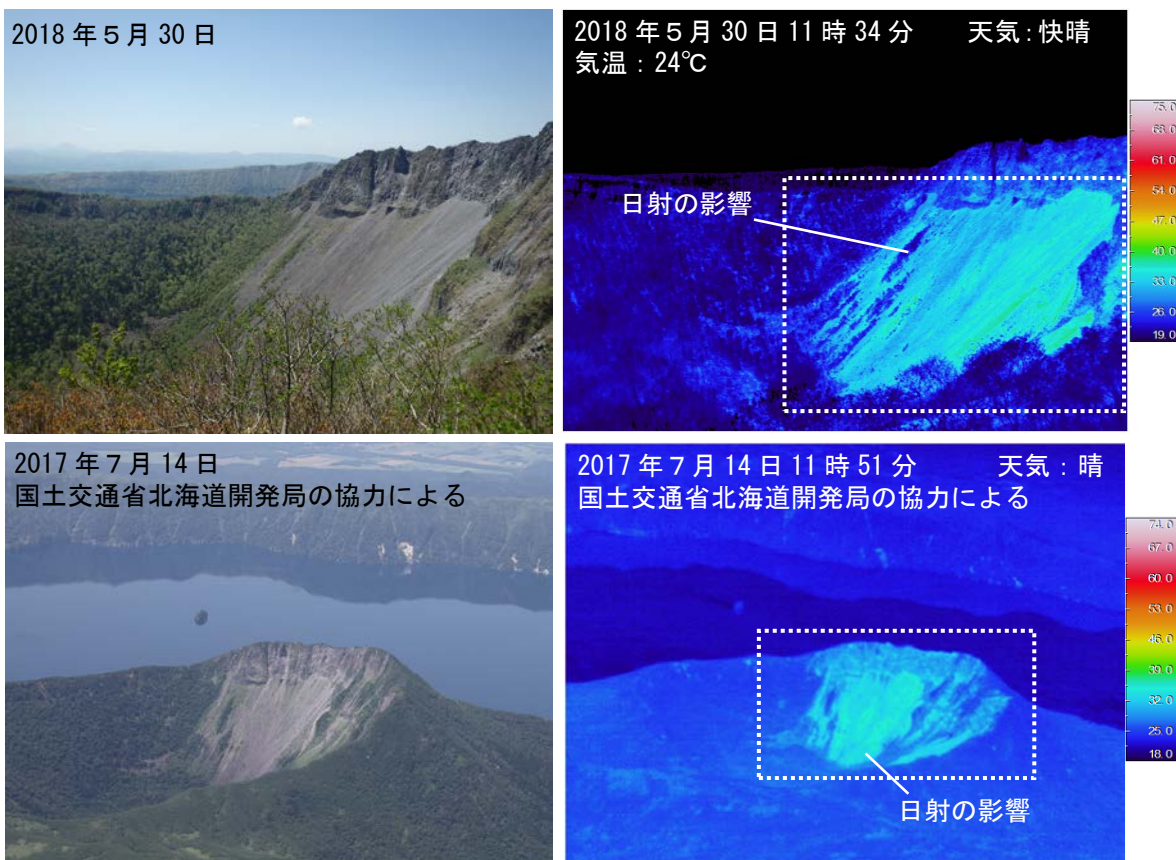


図 2 摩周 カムイヌプリの地表面温度分布
上段：南東側（図 1 の①）からカムイヌプリの北側火口壁を撮影
下段：東側上空（図 1 の②）からカムイヌプリを撮影
・カムイヌプリの北側火口壁では、噴気や地熱域は認められませんでした。
・図中の点線部は日射の影響を大きく受けています。